

政策整理番号 22

### 評価シート(B)

対象年度	H16	作成部課室	教育庁義務教育課	関係部課室	教育庁高校教育課
------	-----	-------	----------	-------	----------

政策番号	3-7-1	政策名	個性・創造性・豊かな心を培う教育の推進
------	-------	-----	---------------------

施策番号	6	施策名	地域に開かれた学校づくり
------	---	-----	--------------

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効
概ね有効
課題有

**【政策評価指標達成状況から】有効**  
 指標名:全授業日数中,社会人講師が教えている日数の割合 達成度:小学校A,中学校A,高等学校A  
 ・小学校は地域との連携を生かした社会人講師等による授業が増加し,仮目標値を5.4ポイント上まわる成果をあげた。また,中学校も仮目標値を1.7ポイント上まわり,着実に成果をあげた。  
 ・高等学校の現況値は仮目標を0.1ポイント上まわり,3年間の推移を見ても上昇傾向にある。  
 指標名:「10日以上授業公開を設定している学校の割合」 達成度:小学校A,中学校B,高等学校A  
 ・全体的に達成度は伸びており,各学校での地域に開かれた学校づくりの取組は進んでいる。  
 ・高等学校における現況値の大きな伸びは,県教委の指導により,各校が積極的に授業公開に取組んだ結果の表れである。

**【政策満足度から】有効**  
 ・政策満足度は60で,4年間変化なし。

**【社会経済情勢を示すデータの推移から】該当なし**  
 ・特になし。

総括 地域に開かれた学校づくりは重要な課題であり,現在実施されている施策は,政策評価指数達成状況や政策満足度からみて有効性が認められる。

### 施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1	主	キャリア教育総合推進事業	6		
2	主	特別非常勤講師制度	7		
3	重	学校評価支援推進事業	8		
4	重	地域での学びを育む推進モデル事業	9		
5			10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号,4号

適切
概ね適切
課題有

**【国,市町村,民間団体との役割分担】適切**  
 ・(国)特になし  
 ・(県)「キャリア教育総合推進事業」,「特別非常勤講師制度」,「学校評価支援推進事業」,「地域での学びを育む推進モデル事業」はいずれも県が設置者であり,主体的に推進すべき事業である。  
 ・(市町村)「特別非常勤講師制度」,「地域での学びを育む推進モデル事業」において連携を図っている。  
 ・(民間団体)「特別非常勤講師制度」,「地域での学びを育む推進モデル事業」において,外部講師やボランティア等の形で協力をもらっている。

**【施策目的を踏まえた事業か】適切**  
 どの事業も児童生徒と地域を意識して推進され,地域に開かれた学校づくりという共通の目的を踏まえており,施策の実現に重要な位置を占めるものである。

**【事業間で重複や矛盾がないか】適切**  
 ・各事業は目的と対象者に応じ,計画に沿って適切に進められており,重複や矛盾はない。

**【社会経済情勢に適応した事業か】適切**  
 ・社会情勢は地域に根ざした開かれた学校づくりを望んでおり,それぞれの事業はその要請に応えるものである。

**【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性)適切**  
 ・施策重視度と満足度のかい離は25であり,それぞれの事業は開かれた学校づくりの施策として必要な施策である。

**【総括】**  
 ・施策目的,県の役割分担,事業体系,施策満足度調査の推移等から,本施策の事業設定は適切と判断する。

施策番号	6	施策名	地域に開かれた学校づくり
------	---	-----	--------------

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効	概ね有効	課題有
----	------	-----

【施策満足度から】課題有  
 ・施策満足度50で3年間の推移でみるとやや下降気味である。  
 【政策評価指標達成状況から】有効  
 指標名「全授業日数中、社会人講師が教えている日数の割合」 達成度:小学校A 中学校A 高等学校A  
 ・小学校は地域との連携を生かした社会人講師による授業が増加し、仮目標値を5.4ポイント上まわる成果をあげた。また、中学校も仮目標値を1.7ポイント上まわり、着実に成果をあげた。  
 指標名「10日以上授業公開を設定している学校の割合」 達成度:小学校A, 中学校B, 高等学校A  
 ・全体的に現況値は伸びており、事業群は開かれた学校づくりの施策を効果的に推進している。  
 ・高等学校における現況値の大きな伸びは、県教委の指導により各高等学校が積極的に授業公開に取り組んだ結果の表れである。  
 【社会経済情勢を示すデータの推移から】該当なし  
 ・特になし。  
 【業績指標推移から】有効  
 ・全ての業績指標が増加傾向で推移している。  
 【成果指標推移から】概ね有効  
 ・中学校の社会人活用の指標は下降しているが、他は上昇に転じている。  
 ・社会人講師の活用回数(成果指標)は中学校で減少傾向にあるが、ボランティアを含む社会人講師の活用(政策指標や業績指標が関わる)は大きく伸びており、開かれた学校づくりという施策自体は大きく前進していると判断できる。  
 【総括】  
 ・施策満足度に課題があるが、政策評価指標達成状況、業績評価指標推移、成果指標推移から事業群は概ね有効と判断する。

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的	概ね効率的	課題有
-----	-------	-----

【施策満足度 業績指標・成果指標】課題有  
 ・施策満足度は50でやや下降気味だが、業績指標推移は上昇している。  
 ・事業群は着実に成果をあげているが、社会人講師の活用などの事業は対象者が限定され、学校内での活動が多いこともあり、一般県民に広く知られていないからと考えられる。  
 【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】効率的  
 ・指標値は施策の目指す方向に推移しており、業績指標及び一部の成果指標との相関が認められることから、効率的と判定する。  
 【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】概ね効率的  
 ・社会情勢を示す客観的データがないところから判断は難しいが、社会情勢の向かう方向と業績指標と一部の成果指標の相関が認められることから、概ね効率的と判断する。  
 【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】効率的  
 ・事業費がやや減少傾向であるのに対し業績指標は全体として上昇しており、効率的と判断する。  
 【総括】  
 ・政策評価指標達成度や業績指標の推移は施策の目指す方向に進んでおり、事業費に対する業績指標の割合からみても、事業群は概ね効率的であると判断する。

B 施策評価(総括):規則 § 6

適切	概ね適切	課題有
----	------	-----

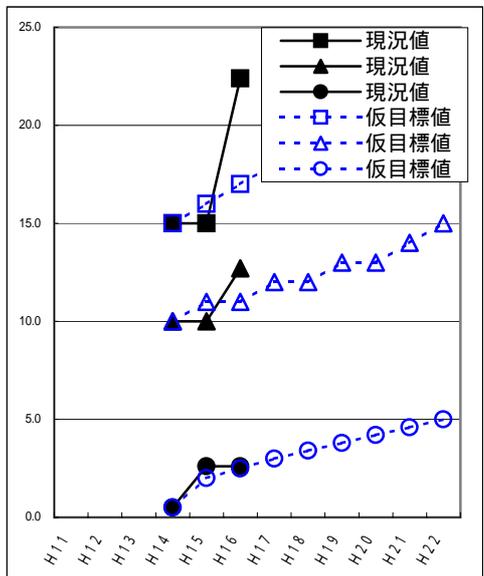
・施策の実現に向けた県関与の適切性と妥当性、事業群の有効性、事業群の効率性から、また、政策評価指標達成状況や業績指標の推移等から概ね適切であると判断する。

対象年度	H16	作成部課室	教育庁義務教育課	関係部課室	教育庁高校教育課
政策番号	3-7-1	政策名	個性・創造性・豊かな心を培う教育の推進		
施策番号	6	施策名	地域に開かれた学校づくり		

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
全授業日数中, 社会人講師等が教えている日数の割合		%						
目標値	難易度	H17 小18中12高3	H22 小20中15高5					
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H14				H14	H15	H16	
現況値 (達成度判定値)	小15 中10 高0.5				小15 中10 高0.5	小15 中10 高2.6	小22.4 中12.7 高2.6	
仮目標値					小15 中10 高0.5	小16 中10 高2	小17 中11 高2.5	小18 中12 高3
達成度					小A 中A 高A	小B 中A 高A	小A 中A 高A	

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・児童生徒が自らの個性や創造性を伸長するため, 幅広い知識が習得できるとともに, 将来の進路決定等の参考に資することができる環境整備を示す指標として選定した。  
 ・ボランティアを含めた地域の社会人講師等の活用を通して, 学校が地域と力を合わせて生徒の成長を支えていく取り組みの程度が指標となる。

(3) 施策満足度の推移

施策満足度 (単位: 点)	年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
	施策重視度 A	-		80	75	75						
	施策満足度 B	-		58	55	50						
	かい離 A-B	-		22	20	25						

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し	イ 達成度と施策満足度の推移の相関
<p>達成度: 小学校...A, 中学校...A, 高等学校...A                  ・小学校は地域との連携を生かした社会人講師等による授業が増加し, 仮目標値を5.4ポイント上まわる成果をあげた。また, 中学校も仮目標値を1.7ポイント上まわり, 着実に成果をあげた。                  ・高等学校においては, 学区が広く地域との連携が希薄な面もあり, 身近な地域ボランティア等の人材発掘に苦慮しているが, 仮目標を上まわる成果をあげた。                  ・高等学校における社会人講師等は専門的でより高度な知識や経験が必要とされるため, 活用が思うように進まないことが多かったが仮目標を上まわる成果をあげた。</p>	<p>判定: ×                  ・小学校における社会人活用: ×                  ・中学校における社会人活用: ×                  ・高等学校における社会人活用: ×</p> <p>相関の判定: (正の相関), ×(負の相関), ... (判定不能 満足度あるいは達成度の変動がない, または達成度が判定不能のため相関の検証ができない場合等)</p>

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続 要検討

【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】  
 ・優れた知識や経験等を有する地域の社会人を活用する件数は, 一層の活用を促進する観点から妥当なものとする。講師を活用している学校数ではなく, 社会人を活用した割合, 活用の密度の濃さを把握するものとして本指標を考えた。  

$$\text{社会人講師の活用日数} \div \text{全授業日数} \times 100\%$$
 ・この指標は, 地域の社会人講師の活用の程度を図れる指標である。

政策評価指標分析カード(整理番号1)

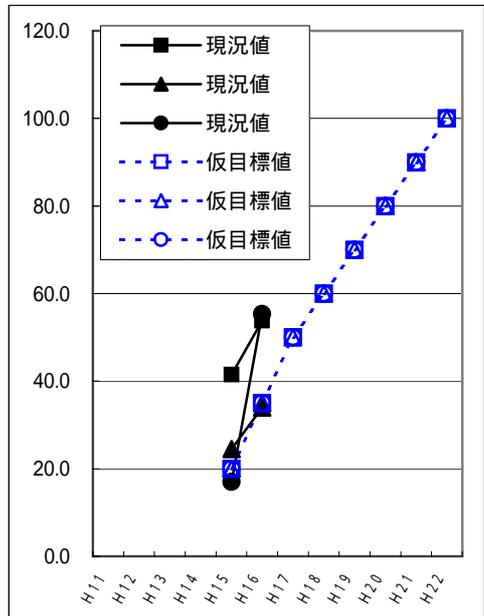
政策整理番号 22

対象年度	H16	作成部課室	教育庁義務教育課	関係部課室	教育庁高校教育課
政策番号	3-7-1	政策名	個性・創造性・豊かな心を培う教育の推進		
施策番号	6	施策名	地域に開かれた学校づくり		

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
10日以上授業公開日を設定している学校の割合		%						
目標値	難易度	H17	小50中50高50	H22	小100中100高100			
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H14					H15	H16	
現況値 (達成度判定値)	小0 中0 高0					小41.5 中24.5 高17.0	小53.8 中34.0 高55.3	
仮目標値						小20 中20 高20	小35 中35 高35	小50 中50 高50
達成度						小A 中A 高B	小A 中B 高A	

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・学校見学に対する受け入れや公開は通常行われているが、各学校が目標、ねらいに応じて課題を設定し学校公開を行う日数の多さが開かれた学校づくりの指標となる。

(3) 施策満足度の推移

施策満足度 (単位:点)	年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
	施策重視度 A	-		80	75	75						
	施策満足度 B	-		58	55	50						
	かい離 A-B	-		22	20	25						

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し	イ 達成度と施策満足度の推移の相関
<p>達成度:小学校・・・A, 中学校・・・B, 高等学校・・・A</p> <p>・全体的に現況値は伸びており、事業群は開かれた学校づくりの施策を効果的に推進している。</p> <p>・高等学校における現況値の大きな伸びは、県教委の指導により各校が積極的に授業公開に取り組んだ結果の表れである。</p> <p>・今後の見通し:今後とも仮目標値の達成に向けて各市町村教委への指導を行うことで、保護者や地域の理解が一層進み、地域に開かれた学校づくりが推進されるよう努力していく。</p>	<p>判定: ×</p> <p>・小学校: ×</p> <p>・中学校: ×</p> <p>・高等学校: ×</p> <p>相関の判定: (正の相関)、×(負の相関)、...(判定不能 満足度あるいは達成度の変動がない、または達成度が判定不能のため相関の検証ができない場合等)</p>

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続 要検討

[施策の有効性を評価する上で適切な指標か]  
 ・学校見学に対する受け入れや授業公開は通常行われているが、各学校が目標、ねらいに応じて課題を設定し、計画的に学校公開を行う日数の多さは、学校が意図的に開かれた学校づくりを推進していくものであり、指標として適切である。



施策番号	6	施策名	地域に開かれた学校づくり
------	---	-----	--------------

活動によりもたらされた成果				施策実現までの道筋 【事業内容 目的】
成果指標名	H14	H15	H16	
活用回数	72	72	92	社会人を外部講師として招聘し、講話や技術指導を通して、生徒が自らの個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育成します。
活用回数	640	420	625	地域の特色ある人材を積極的に学校に迎え入れ、その専門的スキルや知識を活用し、開かれた特色ある学校づくりに資するようにします。
活用回数	1,341	1,237	1,004	地域の特色ある人材を積極的に学校に迎え入れ、その専門的スキルや知識を活用し、開かれた特色ある学校づくりに資するようにします。
試行校の校数			29	学校評議員を外部評価者として活用するとともに学校評価の省力化を図る「学校評価システム」を開発と効果的な学校評価の在り方についての研修会を実施し、改善につながる学校評価を推進します。
学習支援ボランティア及び学習相談員の人数			44	(仮称)地域学習センターを県内3地域(県立高校)に設置し学校休業日における児童生徒の自主学習を支援し保護者も含めた学習相談に対応します。

施策概要

地域に開かれた学校づくり  
 地域に開かれた学校づくりに対応できる人材を育成するため、地域の優れた知識や技能を持った社会人を学校に招くなど、地

# 施策・事業展開シート(C)

政策整理番号 22

対象年度	H16	作成部課室	教育庁義務教育課	関係部課室	教育庁高校教育課
政策番号	3-7-1	政策名	個性・創造性・豊かな心を培う教育の推進		
施策番号	6	施策名	地域に開かれた学校づくり		

## C - 1 評価結果から抽出される課題と対応策

【政策評価】施策群設定の妥当性, 施策群の有効性  
 ・平成16年度の指標から, 政策の満足度は高く(60), 施策の優先度も高い(2位)。地域に開かれた学校は現代社会の要請であり, これは学校教育の活性化につながる。妥当性, 有効性ともにあると判断する。  
 ・小・中・高等学校とも地域の社会人をいっそう活用するとともに, さらに開かれた学校づくりをめざして学校公開を進めることで指標の向上が期待できる。

【施策評価】事業群設定の妥当性, 事業群の有効性, 効率性  
 ・各学校において豊かな知識・技能を有する社会人の活用は進んでおり, これによる特色ある学校づくりや多様な教育活動も推進されている。又, 学校公開も進んでおり, 有効性・効率性は高いと判断する。  
 ・小・中・高校を通じて, 県関与の適切性や施策の有効性, 効率性からみて概ね適切に実施されているが, 今後, さらに地域人材の活用と活用の条件整備を進めていく。  
 ・社会人活用や学校公開が進んでいることに関して地域住民が十分把握していないことが課題と考えられるので, HP, 学校通信, 公共の新聞や放送などを通して, 積極的に地域住民へ情報提供し, 連携を強めていく。

【上記対応により, 当該事業を縮小・中止した場合の影響】  
 ・地域との連携に積極的でない印象や学校の閉鎖性を強める印象を与え, 地域に開かれた学校という社会の要請に逆行することになり, 学校教育の活性化や地域との連携につながらない。

## C - 2 施策・事業の方向性

### 施策の次年度(H18年度)の方向性とその説明

方向性	拡大	維持	縮小	その他
-----	----	----	----	-----

【見直しの視点とその理由】  
 ・県民満足度調査は十分といえないことから, 施策・事業について地域住民や県民の理解を得るように心がけ, 社会人活用や学校公開について積極的に情報提供に努め, 開かれた学校づくりの推進を図る。

【次年度の方向性】  
 ・平成16年度から2つの事業が新たに推進されており, これらも含めて関連する各事業と連携を図って施策を効果的に推進する。

### 主要事業・重点事業の次年度(H18年度)の方向性とその説明

事業番号	種別	事業名 [H16決算見込額]	方向性	方向性に関する説明
1	主	キャリア教育総合推進事業 [1,191千円]	拡大	高校生の就職内定率の低迷が続く中, 社会人講師や就業体験による職業観の醸成を図る本事業の役割は極めて重要である。このため, 今後とも内容, 規模の充実を進めていく必要がある。
2	主	特別非常勤講師制度 [9,155千円]	拡大	地域住民を社会人講師として活用することは, 地域に開かれ, 地域と共に歩む学校づくりのために重要な事業である。これは地域の児童生徒たちの成長に大きく寄与するものでもあり, 一層の拡大が必要である。
3	重	学校評価支援事業 [2,005千円]	拡大	新規事業のため具体的な成果はまだ出ていないが, 開かれた学校づくり等学校教育を取り巻く状況を考えるとき, 学校評価の推進は拡大が妥当と思われる。
4	重	地域での学びを育む推進モデル事業 [3,430千円]	拡大	本事業は保護者の関心も高く大変多くの児童生徒が参加した。一層の拡大を図り, その声に応える必要がある。本事業を推進することは, 地域の中で自ら学ぶ児童生徒づくりを通じた学力向上にもつながっていく。
5				
6				
7				
8				